

# 歴十博

2015  
September  
vol.192



[特集]

# 近現代日本の 社会運動資料

法政大学大原社会問題研究所と社会運動研究 榎一江

働く人々の歴史を未来へ—社会労働運動史のお宝紹介  
大阪産業労働資料館(エル・ライブラリー) 谷合佳代子

「水俣学」をつくる—熊本学園大学水俣学研究センター 花田昌宣

「問い合わせ」が出会い、響き合う空間へ  
—立教大学共生社会研究センター 平野泉

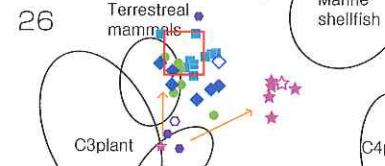
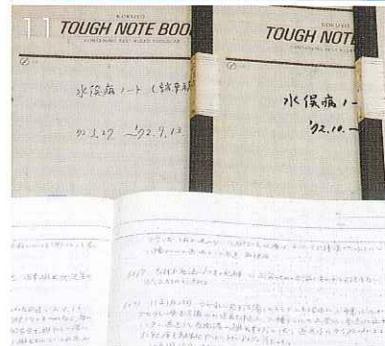
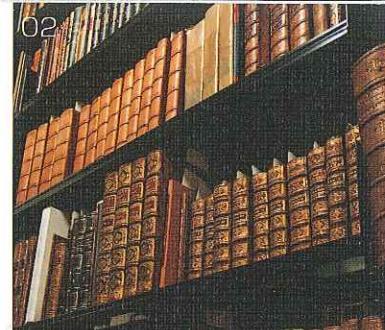


2015  
September  
vol.192

[特集]

## 近現代日本の社会運動資料

- 01 特集解説 荒川 章二
- 02 〈特集1〉法政大学大原社会問題研究所と 榎 一江  
社会運動研究
- 06 〈特集2〉働く人々の歴史を未来へ 谷合 佳代子  
—社会労働運動史のお宝紹介  
大阪産業労働資料館(エル・ライブラリー)
- 10 コラム 成田空港 空と大地の歴史館  
—空港会社による負の遺産の展示— 石毛 博道
- 11 〈特集3〉「水俣学」をつくる 花田 昌宣  
—熊本学園大学水俣学研究センター
- 15 コラム くさい魚とぜんそくの公害  
—四日市公害と環境未来館発足— 澤井 余志郎
- 16 〈特集4〉「問い合わせ」が出会い、響き合う空間へ 平野 泉  
—立教大学共生社会研究センター
- 歴史の証人 写真による収蔵品紹介
- 20 歴博と社会運動・学生運動資料 荒川 章二
- 歴史への招待状
- 24 企画展示「大久保利通とその時代」 樋口 雄彦
- 研究者紹介 79
- 26 韓国の考古遺跡から出土する動物遺体とその利用 金 憲奭  
博物館展示のいま 44 那覇市歴史博物館
- 28 「王朝文化と都市の歴史」をメインテーマとした  
沖縄県唯一の国宝展示館 外間 政明
- 30 書評 山田 康弘著『老人と子供の考古学』 清家 章
- 特集展示 第3展示室 特集展示
- 31 泥絵と江戸の名所 大久保 純一
- 32 企画展示のご案内
- 33 歴博かわら版



# 水俣今昔



「水俣今昔」水俣学アーカイブス

過去と写真と同じアングルで撮影した現在の写真を比較でき、古地図や現在の地形図上に撮影地点をプロットしてある。

多くの人は過去の事件と思われているかも知れない。たしかに、地元の熊本をのぞくと、水俣病の報道を目にすることはまれであろう。とはいっても、地元にとっては、裁判などの患者自身の運動があり、加害企業チツソの分社化施策、水俣病認定基準の改悪が進められるなど、現在の課題でありつづけている。さらにも、水俣病患者はなお病を抱えながら生活を送っているばかりか、今まで被害補償と救済を求めている被害者は多い。

そうした半世紀を超える経験の中から水俣病の失敗とはいつたい何だったのかということを学んでいきたい、調べていきたい、そして発信

# 水俣学

# をつくる

## —熊本学園大学水俣学研究センター

花田 昌宣

HANADA Masanori  
熊本学園大学／社会政策

熊本水俣病に関する資料所蔵機関としては、相思社の水俣病歴史考証館や水俣市立水俣病資料館などがあるが、これらの施設に対し、同センターは負の遺産としての水俣病の経験を将来に生かす参加・発信型の研究構築を目的として設立された。ここではその創造的研究を支えるアーカイブ機能に注目する。(編集委員)

水俣病は、水俣病の発生初期から五〇年以上にわたって水俣病患者に寄り添ってきた医学者、原田正純氏が、医学専門家の限界を痛感し、さまざまな学問分野の人たちと一緒に学を興したいと考えて、一九九九年、熊本大学医学部から熊本学園大学に赴任されて始めたものだ。足尾鉱毒事件の田中正造の谷中学、あるいは伊波普猷の沖縄学など地域名を冠した学はいろいろとあるが、水俣学は、水俣の地域学でもなく、水俣病学でもなく、水俣病の経験を将来に生かすための学問として構想された。大学内に水俣学研究センターをおくものの、私たちの調査研究の特徴は、大学や研究機関の世界にこもるのではなく、あくまでも現地に根ざし、地域の人々とともに活動し、成果を地域に還元していくオープンな活動であることだ。二〇〇五年に設置された水俣学研究センターは、熊本県内にある大学キャンパス内と水俣市内の現地研究センターの二つの研究拠点をおいている。あくまで研究所なので博物館機能や図書館機能はなく、プロのアーキビストが

したいというのが、私たちの水俣学の出発点である。またわれわれの海外調査活動や国際シンポジウムで分かったことだが、水俣病の経験に学びたいという海外の国や地域もたくさんある。

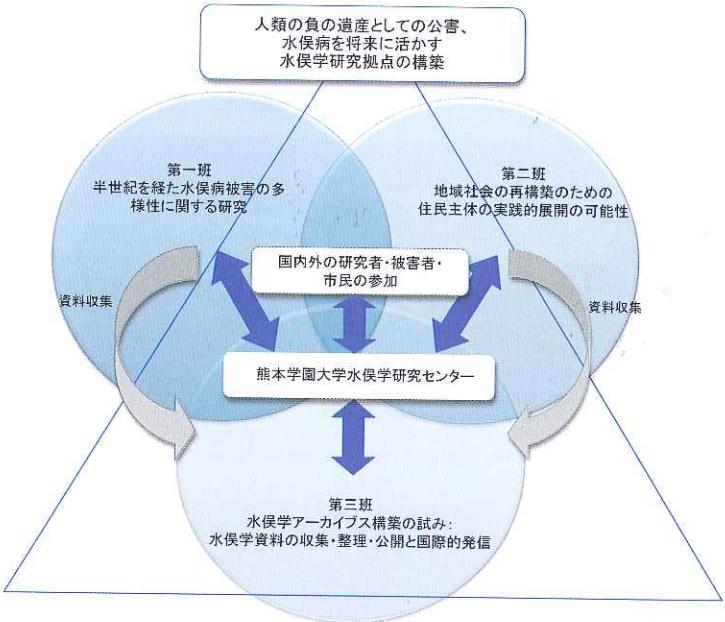


図1 水俣学の体系

成果を上げてきて  
いる。収集・整理  
している水俣病に  
かかるさまざま  
な資料は、同時代

かかわるさまざま  
な資料は、同時代

資料、現代の資料  
であって、評価の

定まっていない出  
来事に関わる資料  
だ。だから何をど  
こまで収集し、公  
開するか難しい。

ただ、このよくな  
るわけでもないのだが、資料の収  
集と整理・公開は当初から意識的に  
取り組んできた。

この水俣学は、「水俣病被害の全  
容解明・半世紀を経た水俣病被害の  
多様性と水俣学の視点に立った将来  
の課題に関する研究」「地域再構築  
モデルの構築・環境破壊を経験した  
地域社会の再構築のための新たな統  
治とその評価・住民主体の実践的展  
開の可能性」「水俣学アーカイブス  
構築の試み・水俣学資料の収集・整  
理・公開と国際的発信」の三つの柱  
からなっている。(図1)

この三つの柱は外から見ると地  
道で、派手ではないものの、着実に

いるわけでもないのだが、資料の収  
集と整理・公開は当初から意識的に  
取り組んできた。

この水俣学は、「水俣病被害の全  
容解明・半世紀を経た水俣病被害の  
多様性と水俣学の視点に立った将来  
の課題に関する研究」「地域再構築  
モデルの構築・環境破壊を経験した  
地域社会の再構築のための新たな統  
治とその評価・住民主体の実践的展  
開の可能性」「水俣学アーカイブス  
構築の試み・水俣学資料の収集・整  
理・公開と国際的発信」の三つの柱  
からなっている。(図1)

いただけるよう、使えるようなも  
のにしていきたい。これが私たちの  
思いである。原田正純氏は、田中正  
造が谷中学と名付けた足尾鉱毒事件  
の研究が百年たつた今でも続いている  
り、水俣病の研究もまた百年後に引  
き継がれるだろうと言っていた。  
そのためにも資料をきちんとまとめ  
て残しておくことが大切だ。

解読するための基礎的な材料であ  
る。では、水俣病事件史とはどのよ  
うに形作られたのか。その中心に位  
置するのはあくまでも水俣病患者で  
あり、被害民である。

いくつか例示しよう。昭和三十一年  
代前半の原因究明期においては、な  
ぜ、どのように水俣病患者が発生し  
たのかが問われていた。その過程で  
チツソの水俣工場の排水が原因であ  
らうということが判明すると、排水  
停止および操業停止が問題になるた  
め局面は一転する。はたして、漁民  
たちは工場に乱入してまで操業停止  
と補償を求めた。一方、極貧の中で  
呻吟していた患者たちも工場前に座  
りこんでいのちの補償を求めた。会  
社側は、原因不明であると言い張り、  
公序良俗に反すると後に司法から指  
弾された見舞金協定を提案し、この

仲介を行政機関が果たした。行政自  
身は、排水停止、汚染魚貝類の摂食  
禁止を命ずることはついぞなかっ  
た。(図2)

やがて一九六九年にチツソを相手  
取った水俣病訴訟が提訴され、原告  
患者とチツソの間で法廷の中で争  
われた。裁判では証拠が鍵になる。  
この訴訟の過程で、水俣病の発生  
機序から、工場の水銀排出工程、そ  
してチツソの責任にかかる膨大な資  
料が収集され証拠として提出され  
た。その多くが水俣病研究会の手に  
よるものであった。

また、患者に寄り添つた人々が多く  
いた。水俣では「支援者」と呼ば  
れる。ここには研究者もいれば、労  
働組合員、無名の市民などもいた。  
その人たちの資料が、ジャーナリスト  
であつた宮澤信雄氏の資料であ

**社会史と社会運動史の  
記録としての水俣病資料**

私たちが収集、整理、公開してい  
る水俣学関連資料は、水俣病事件史  
つまり水俣病の歴史がどのように形  
作られてきて今日に至っているかを  
見ておこう。



図2 「水俣工場新聞」53号(社内報)新日窒労組旧蔵資料  
4000人の従業員に水俣病の原因是旧陸軍の爆薬の海上投棄と知らせた。この直後、旧軍関係者が投棄の事実はないと否定した。

り、市役所職員であつた松本勉氏の資料である。いっぽう、水俣病患者自身の資料といえば、みずから書いたものは少ない。調査対象としての記録がほとんどで、医学的なカルテや聞き取り記録が多く、人によつては裁判での陳述書等といった形で残されている。その他に漁師たちの日記などが見られる。(図3)

やがて、チツソは民事上の損害賠償責任だけではなく、幹部の刑事責任(傷害致死傷罪)も問われ、会社の犯罪を立証するために膨大な資料が法廷に出された(一九八八年有罪判決確定)。さらに、国と熊本県も被害の拡大責任を問われ、二〇〇四年に最高裁で賠償責任が認められた。その際にも膨大な証拠資料が用意された。これら資料の多くは、被

害者たちの運動があつたからこそ、収集されたものであつた。

また一九七〇年代からは研究者たちが水俣の調査に入るようになる。

その一つの大型調査団が不知火海総合調査団(色川大吉団長)であつた。

この調査には地元の患者たちや支援者が協力した。その団員の一人であ

り第二次調査団の團長であった最首

悟氏は地域の漁業調査をされた。何

よりも漁民が第一に被害にあつたか

らであり、水俣病の発生拡大のプロ

セスをたどるには漁業の調査を欠か

すことができないからであつた。最

首悟資料は、水俣・芦北の漁民・漁

業資料が中心になっている。(図4)

私たちが水俣学関連資料と呼ぶ水俣病関連の種々の記録(文書、写真、書簡類や録音記録、物品)は、学術

的な研究論文や調査資料、医学・工学上の資料もあるにしても、このように水俣病に関わる社会運動の中から生まれてくるものであつた。(図5)

これらの資料は、収集され、整理登録され、かつ公開利用できはじめて生きてくるし、寄贈された方々の期待に応えるものとわれわれは考えた。水俣病を後世に語り継ぐといふことはこのような作業が必要なのだ。(図6)

## 水俣学関連資料データベース

ところで、私たちが資料収集を本格的に開始するようになつた契機は、水俣病を引き起こした企業、チツソの労働組合である新日本窒素肥料組合の所蔵資料を引き受けたこ

とであつた。この労組の事務所には敗戦直後から二〇〇五年までの資料が、段ボール箱にして四〇〇ほど残されていた。一企業の労組(単組)資料がこれほど残っているケースはなく、日本の労働運動史資料としては第一級の資料である。この労働組合は水俣病患者の支援に立ち上がり経験を持ち、労使関係の資料ばかりではなく、水俣病に関わる資料も多數含まれており、また水俣といふ地方都市の労働者生活史としての意味を持つものが多數みられる。(図7)

労組資料の整理公開と並行して、水俣学研究センター開設以前から収集されている水俣病関連資料に加え、水俣病の関係者や住民から資料の提供があつた。主要なもので目録

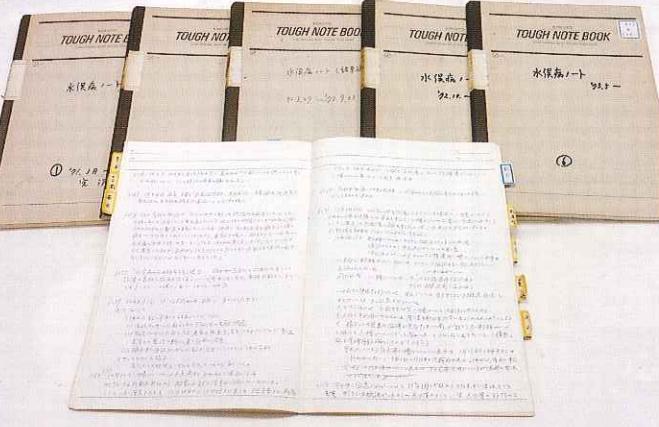


図3 水俣病ノート 宮澤信雄旧蔵資料  
NHK記者であった宮澤氏は丹念に研究ノートを作成していた。

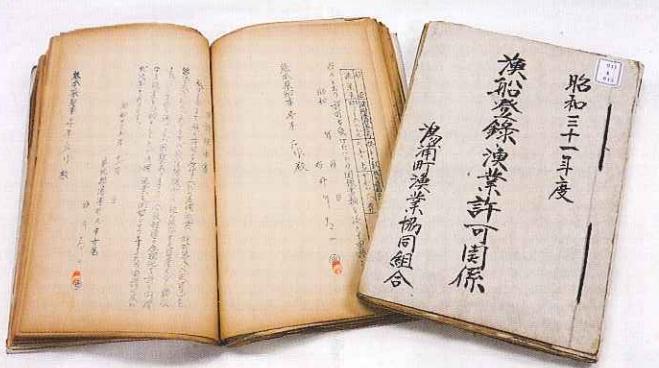


図4 「漁船登録漁業許可関係」最首悟旧蔵資料  
かつての漁業許可資料で、どのような種類の漁業がなされていたか分かる。

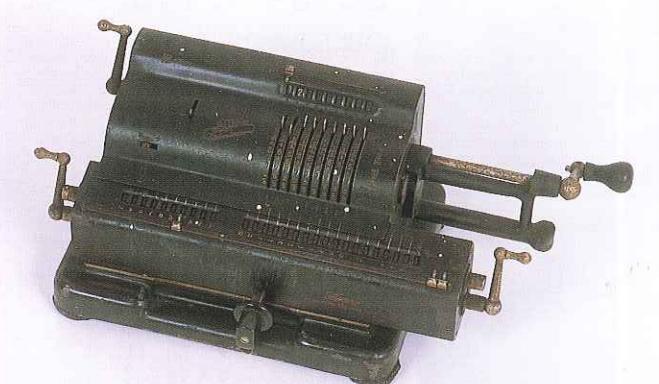


図5 「タイガーカレッカ」新日本窒素労働組合旧蔵資料  
かつて、労組事務所で用いられていた手回し計算機。



図6 新日本窒素労働組合60年の軌跡 全国巡回資料展(法政大学)  
2009年、全国巡回資料展を東京、大阪、熊本で実施した。

## 水俣学アーカイブスの構築

いまのところ、水俣学関連資料に

を公開しているのは、水俣病裁判を支援した水俣病研究会資料、宮澤信雄資料、最首悟資料、浜元二徳資料がある。また、現在公開のための準備をしているのは、元市役所職員の松本勉資料、各種の水俣病訴訟関係資料、地域資料、医学関連資料や関連書籍なども膨大にのぼり、地域の方々からも書籍の資料の提供が続いている。(図8)



図8 元新日室労組組合員が写真整理する様子。  
写真整理は、かつての様子を知る水俣工場の旧従業員が行なっている。

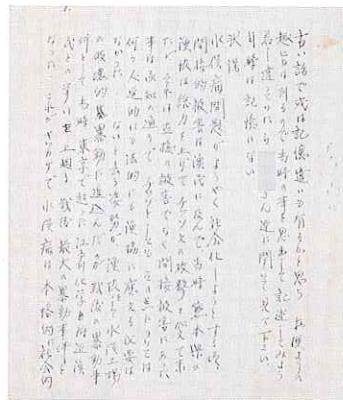


図9 見舞金協定締結時の事情を示す  
書簡が残されていた。

図7 「正月用品流通価格調査」▶  
(1949年) 新日本室労働組合旧蔵資料  
労組は、賃金要求の根拠づくりに生活必需品の物価調査をしていた。その品目をみると当時の暮らしの様子がわかる。

資料画像での公開にも取り組んでおり、水俣病研究会病資料および一部の浜元二徳資料は画像での提供を行なっている。

また労組資料の写真もかなりの点数の画像を公開している。

これは、われわれが収集して来た水俣病研究・資料文献データベースおよび映像資料を活用し、全体を「証言」「歴史」「自然」「教育」「記録」「未来」の六部構成としており、当センターの映像・写真資料をもとに、利用・公開が認められたものを編集しインターネット上で提供している。

なかでも、「水俣今昔」と題されたコンテンツは、昔の水俣の写真と同じアングルで撮影された現在の写真を掲載し、それを現在の地図および古地図の上で撮影地点を示し、時空を超えて水俣という町が理解できるよう工夫してある。(冒頭写真)

また、水俣病患者の証言も収録した。患者たちの語りを、地元テレビ

い場合には、水俣学研究センターにおいて、ひろく専門家以外の方々にも検索することができ、資料を閲覧した

とはいえ、このような資料は、主として研究者や学生、水俣病問題を調べようとする人々が利用しているものだ。(図9)

私たちは水俣学の理念に照らして、ひろく専門家以外の方々にも水俣病事件史や水俣学の取り組みの一端を理解(経験)していただきこと目的として、「水俣学映像アーカイブス」を構築して、記録・記憶の集積を視覚的に公開する」として、二〇一四年一二月からWEBサイトで公開している。



図10 「患者証言」水俣学アーカイブス